

ワールドキャンパスインターナショナル
2008 年度春季プログラム
概要報告



<目 次>

1．2008年“春季”プログラムの全体概要	
(1) 全体スケジュール	1
(2) 参加者	1
2．各都市別の活動概要	
(1) 長崎県大村市	2
(2) 熊本県熊本市	4
(3) 熊本県荒尾市	5
(4) 大阪府吹田市	7
(5) 奈良県宇陀市	8
(6) 千葉県我孫子市	10
3．ホストファミリーアンケートの結果概要	
(1) 基本情報	12
(2) 結果概要	12

参考資料

- ・ 参加者リスト
- ・ 地域実行委員会（代表）リスト
- ・ スタッフリスト
- ・ 協力企業・団体等

1. 2008年“春季”プログラムの全体概要

(1)全体スケジュール

- ・ 昨年度の実績・課題を踏まえた上で、今後のより効果・効率の高いプログラム実施を目指し、今年度は春季と夏季の2回のツアーとした。
- ・ 2回のツアー実施に伴い、春季は2ヶ月で6都市を訪問することとして、より多くの学生が参加しやすいよう期間は3分割した。なお、これに伴い、1都市での滞在期間は昨年度よりも長くなっている。

第1セッション：

長崎県大村市（2月11日～2月25日、15日間） オリエンテーション含む
熊本県熊本市（2月25日～3月4日、9日間）

第2セッション：

熊本県荒尾市（3月4日～3月14日、11日間）
大阪府吹田市（3月14日～3月23日、10日間）

第3セッション：

奈良県宇陀市（3月23日～4月2日、11日間）
千葉県我孫子市（4月2日～4月14日、13日間）

(2)参加者

- ・ 計13カ国から23人（第1セッション17人、第2セッション20人、第3セッション19人）が参加した。
- ・ 出身国は、アメリカ、オーストラリア、ベルギー、中国、フィンランド、ドイツ、日本、ルクセンブルグ、ノルウェー、スウェーデン、スイス、ウガンダ、ウズベキスタン。
- ・ リクルーティングは、昨年と同様、担当ジェネラルマネジャーによる欧米でのプレゼンテーション・説明会のほか、世界各国のボランティアネットワーク（20名以上）による募集を行った。
- ・ なお、ウガンダ、ドイツ、アメリカなどは昨年の参加者による口コミ、オーストラリア、ベルギー、スイスなどは提携大学からの参加者が含まれ、ウズベキスタンは昨年に引き続き、HPを通じた情報入手をきっかけとして参加している。
- ・ 日本人参加者は、昨年に引き続き、名古屋外国語大学からの参加者に加え、昨年の参加者の紹介により、合計3名が参加した。
- ・ 書類審査および電話、スカイプ等による直接のインタビューにおいて、昨年の課題を踏まえ、参加者各自の目的意識を十分に確認した上、WCIの目的の共有に力を入れた結果、きわめて意識の高い参加者の参加を得ることができ、各地において大変高い評価を頂いた。
- ・ 昨年同様、平均年齢は20代前半だが、年齢の上限を設けていないため、19歳か

ら 40 歳までの年齢層からの参加が得られた。



2. 各都市別の活動概要

(1) 長崎県大村市

スケジュール

日付	概要
2月11日(月)	長崎空港集合
12日(火)	歓迎会
13日(水)	休日
14日(木)	オリエンテーション
15日(金)	〃
16日(土)	地域交流(少林寺拳法体験)
17日(日)	ホストファミリーデー
18日(月)	オリエンテーション
19日(火)	地域交流(東彼杵小学校訪問)
20日(水)	地域学習(長崎原爆資料館訪問、語り部講話など)
21日(木)	地域テーマ活動(「ふれあいのつどい」、福祉レクチャーなど)
22日(金)	地域交流(スポーツ交流:弓道、グランドゴルフ)
23日(土)	オリエンテーション
24日(日)	ホストファミリーデー(地域ジャズコンサート参加)
25日(月)	熊本市へ移動

ハイライト

テーマ:「福祉・平和」

西日本で最大の障害の種類を越えた交流イベント「ふれあいのつどい」に参加し、600人以上の障害を持った方と直接ふれ合った上、イベントの前後に地元の福祉施

設の責任者から障害者の社会参加に関するレクチャーを頂き、各国の状況についてディスカッションを行って、障害をめぐる個人や行政、社会のあり方などについて考えた。

- ・ 原爆資料館訪問に加え、語り部の方の講話ならびにディスカッションを通じて、戦争と平和の意味、現在の世界情勢について問題意識を交換することができた。
- ・ 第1番目の都市として、滞在期間の約半分は WCI のプログラム及び日本での生活・文化に関するオリエンテーションを行った。



参加者の感想

< 最も心に残った活動 >

- ・ ふれあいのつどい
- ・ 原爆資料館
- ・ 学校訪問

< 感じたこと > (一部)

- ・ 特別支援教育について学んだことは大変有意義で、より多くの方が特別なニーズを持つ人たちと直接接するべきだと思った。(ドイツ、女性)
- ・ 日本の社会福祉システムについて知らなかったことが恥ずかしくなった。(日本、女性)
- ・ 原爆資料館と被爆者の体験談から、人類の愚かさについて、より強く考えさせられた。(スイス、男性)
- ・ 原爆投下が戦争を終えるのに必要だったのかどうか、クラスのメンバーと議論したことが興味深かった。(スウェーデン、男性)

<その他に印象深かったこと>

山と海に接した風景、歴史の多様性、地元の方々

(2)熊本県熊本市

スケジュール

日付	概要
2月25日(月)	移動(大村市)
26日(火)	休日
27日(水)	地域テーマ活動(水俣病資料館、エコタウン訪問など)
28日(木)	地域テーマ活動(こうのとりのゆりかご:慈恵病院訪問など)
29日(金)	地域テーマ活動(ハンセン病施設:菊池恵楓園訪問など)
3月1日(土)	ホストファミリーデー
2日(日)	ありがとうイベント
3日(月)	休日
4日(火)	大牟田市で熊本の大学生との交流会の後、荒尾市へ移動

ハイライト

テーマ:「いのち」

公害の影響の現実を実感を持って確認できたことに加え、その克服から環境保全の取組みへのつながりに感銘を受けた。また、ハンセン病をめぐる差別の現実に驚きながら、海外では日本がハンセン病の克服に資金協力をしていることなどが菊池恵楓園長との質疑応答から明らかになり、さまざまな側面から議論をすることができた。

- ・ こうのとりのゆりかご(赤ちゃんポスト)設置の発案者である蓮田副院長のレクチャーとともに、熊本高校の学生との性教育やシングルマザーなどについてのディスカッションを通じ、「いのち」に関する深い意見交換ができた。
- ・ 昨年に続き、熊本学園大学の学生のボランティア協力を得ることができ、地元住民でもあまり訪問の機会がない場所へ海外の学生と共に行き、多くの議論ができたことで新たな「気づき」があったと評価を得た。





参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ ハンセン病施設
- ・ 水俣市（水俣病とエコタウン）
- ・ こうのとりのゆりかご
- ・ 高校生とのディスカッション

<感じたこと>（一部）

- ・ いかに世論が差別を助長したり、人権の保護につながったりするかを知ることができた。（ウズベキスタン、男性）
- ・ リサイクルセンターの見学・学習を通じて、環境改善とビジネスの両立が可能であることがわかった。（スウェーデン、男性）
- ・ 水俣市が、深刻な環境汚染で苦しんだ街から環境保護の先進都市に生まれ変わった事実が印象に残った。（アメリカ、女性）
- ・ 赤ちゃんポストはドイツで考え出されたものでありながら、ドイツ人の自分がよく知らなかった。（ドイツ、女性）
- ・ 同世代である高校生とのディスカッションを通じ、より親近感をもった学びができた。（ノルウェー、男性）

<その他に印象深かったこと>

阿蘇山、熊本城、公共交通機関

(3)熊本県荒尾市

スケジュール

日付	概要
3月4日(火)	移動（ 熊本市）
5日(水)	地域テーマ活動（地域再生事業に関するレクチャー：荒尾市長など）
6日(木)	地域学習（小岱焼：陶器づくり体験など）
7日(金)	地域学習（食を通じた交流、保育園訪問、仏教講話など）
8日(土)	スポーツ交流（ホストファミリー、小学生との交流）
9日(日)	ホストファミリーデー
10日(月)	地域テーマ活動（地域再生事業の事例体験）

11日(火)	地域学習（万田鉱：炭鉱跡見学など）
12日(水)	ありがとうイベント
13日(木)	休日
14日(金)	吹田市へ移動

ハイライト

テーマ：「地域再生」

内閣総理大臣の認定を受けた地域再生計画に基づく、地域産物の直売、飲食、加工開発、交流体験、情報発信などの機能をもつ 8 つの事業を訪れ、実際に活動に参加する機会を得ることにより、日本の地方が抱える課題と対策について考えることができた。

- ・ 荒尾市長、荒尾市地域再生担当者からのレクチャーをはじめ、地元の事業主も参加した議論を行い、後日、メンバーからの提案を含む報告書を荒尾市に提出した。
- ・ 地域再生事業のほか、小袋焼や万田鉱などの地域資源について体験・見学することもでき、地域についてよく理解することができた。また、多くのホストファミリーとふれあうことのできたスポーツ交流も大変好評だった。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 地域再生事業参加
- ・ お寺訪問（料理や子どもとの交流から仏教講話を含めて）
- ・ スポーツ交流
- ・ 陶芸体験・炭鉱見学

<感じたこと> (一部)

- ・ シニアのための事業や顔の見える消費者との関係など、自分の国にはあまり見られない活動が興味深かった(中国、女性)
- ・ 地域再生事業に共感して、他の地域から移り住んできている人がいることに驚いた(ベルギー、男性)
- ・ 大規模な農家の見学や日本の農業機械の操作体験は大変勉強になった(アフリカ、男性)

<その他に印象深かったこと>

グリーンランド、地域活性化に対する人々の熱意と行動(複数の事業を体験したかった…)

(4)大阪府吹田市

スケジュール

日付	概要
3月14日(金)	移動(荒尾市)
15日(土)	地域学習(万博に関するレクチャーなど)
16日(日)	地域交流(ABCラジオ・スプリングフェスタ参加)
17日(月)	地域テーマ活動(各種企業訪問)
18日(火)	地域テーマ活動(グローバル化に関するディスカッションなど)
19日(水)	地域テーマ活動(各種企業訪問)
20日(木)	ありがとうイベント、青年会議所メンバー及び地元大学生との交流
21日(金)	休日
22日(土)	ホストファミリーデー
23日(日)	ポットラック(持ち寄り)パーティ、宇陀市へ移動

ハイライト

テーマ:「グローバル化」

吹田市及び周辺地域に立地する各種企業(三星ダイヤモンド、アサヒビール、マロニー食品、ABC放送、千日など)にグループを分けて訪問させて頂き、外国人のいる企業や世界的なシェアを誇る製品開発などについて、さまざまな企業から現状を伺う機会が得られた。

- ・ 万博記念の特別イベントにおいてWCIブースを設置し、参加者の持参した各国物品などを展示して、来場者(約30,000人来場)に対して自国の紹介をする機会を得ることができた。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 企業訪問
- ・ 万博イベント
- ・ グローバリゼーション・ディスカッション

<感じたこと> (一部)

- ・ 日本の企業について非常に考えさせられ、将来、日系企業で働くかもしれないと思った。(ベルギー、男性)
- ・ 一つの企業がどのように創業し、どのようにブランドとして社会的に認知されていくのかを知ることができたことは大変興味深かった。(オーストラリア、女性)
- ・ 社員との意見交換によって日本企業に関する直接的な情報が得られた。(スイス、男性)
- ・ 万博イベントへの参加は日本からだけの学びではなく、自分たちの国について伝えることができ大変有意義な体験だった。(アメリカ、女性)

<その他に印象深かったこと>

大都会！、公共交通システム（もう少し詳しいガイドがあれば・・・）

(5) 奈良県宇陀市

スケジュール

日付	概要
3月23日(日)	移動（吹田市）

24日(月)	地域テーマ活動(世界の宗教に関するディスカッション)
25日(火)	地域テーマ活動(室生寺訪問など)
26日(水)	地域交流(ハイキング、茶道・刀鍛冶体験など)
27日(木)	地域学習(東大寺見学など)
28日(金)	地域交流(高齢者施設、音楽村訪問など)
29日(土)	地域交流(地域イベント参加など)、メンバーの技能発表会
30日(日)	ホストファミリーデー
31日(月)	ありがとうイベント
4月1日(火)	休日
2日(水)	我孫子市へ移動

ハイライト

テーマ:「世界の宗教」

荒尾市に続き、仏教についての講話を頂く機会が得られ、日本文化や日本語との関わりについて理解することができたことに加え、参加者それぞれが自分の属する宗教とは異なる宗教について調べ、プレゼンテーションとディスカッションをするワークショップを行い、世界の宗教について深く学ぶことができた。

- ・ 国宝の室生寺やユネスコ世界文化遺産指定の東大寺など、日本が誇るべき伝統的な神社仏閣を訪問した。
- ・ 自然環境を実体験できるハイキングに加え、茶道や刀づくりに直接触れられる体験を通じて、日本の自然と文化について、さまざまな側面から体験的に理解する機会が得られた。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ ハイキング

- ・ 奈良見学
 - ・ 茶道・刀鍛冶体験
 - ・ 高齢者施設・児童合唱団
- <感じたこと> (一部)
- ・ 自然、おいしい弁当、ゆったりした空間、古い家、たくさんのお年寄りとの会話を楽しむことができた。(ルクセンブルグ、男性)
 - ・ 日本の自然を足で知ることができた初めての機会だった。(ドイツ、女性)
 - ・ これまで日本の自然をじっくり見ることがなかったので、全員にとって良かったと思う。(ドイツ、女性)
 - ・ 朝のハイキングに続いて、茶道と日本刀に直接触れる体験によって、日本独自の文化を深く知ることができた。(アメリカ、女性)
 - ・ 高齢者施設への訪問は決して忘れられない経験となった。また、児童合唱団の歌は大変かわいらしかった。(アメリカ、女性)
- <その他に印象深かったこと>
- 自然、寺、静かさ

(6)千葉県我孫子市

スケジュール

日付	概要
4月2日(水)	移動(宇陀市)
3日(木)	地域テーマ活動(我孫子市と環境についてのレクチャーなど)
4日(金)	地域テーマ活動(谷津散策・スケッチ、野外炊さんなど)
5日(土)	地域交流(アクタードール WCI 交流会参加)
6日(日)	ホストファミリーデー
7日(月)	地域交流(日本文化体験など)
8日(火)	地域テーマ活動(鳥の博物館、水の館訪問など)
9日(水)	地域テーマ活動(電力中央研究所訪問など)
10日(木)	休日
11日(金)	特別学習(品川エクソンモービル社訪問)
12日(土)	スポーツ交流
13日(日)	ホストファミリーとのポットラックパーティ、ツアー総括ミーティング“卒業式”、送別パーティ
14日(月)	成田空港解散

ハイライト

テーマ:「環境」

都市部に残る身近な自然（“谷津”）を守る市民活動、環境保全・社会教育のための公共施設、災害対策のための民間の最新技術など、多面的に日本における自然環境の現状や対策について学ぶことができた。

- ・ また、文化活動の盛んな土地柄を活かした、さまざまな団体の発表・交流会に参加し、市民の文化活動を盛り上げる機会が得られた。
- ・ 昨年に引き続き、エクソンモービル社を訪問し、35歳以下の社員の組織との協働による異文化コミュニケーションとグローバルイノベーションに関するワークショップとディスカッションを行った。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 自然散策・スケッチ・野外炊さんの一日
- ・ ホストとのポットラックパーティ
- ・ スポーツ少年団との交流

<感じたこと>（一部）

- ・ 日本の自然環境の保護と土地所有のあり方について、自分の国と比較することができた。（ルクセンブルグ、男性）
- ・ 環境保全のイニシアティブをとるべきなのは個人であり、そのための具体的な方法を考えることができた。（スイス、男性）
- ・ スポーツ少年団との交流は、単なる交流ではなく、活動の焦点が明確でメリハリのある活動になった。

<その他に印象深かったこと>

チームビルディングを通じた一体感のあるワークショップ（エクソン）

3. ホストファミリーアンケートの結果概要

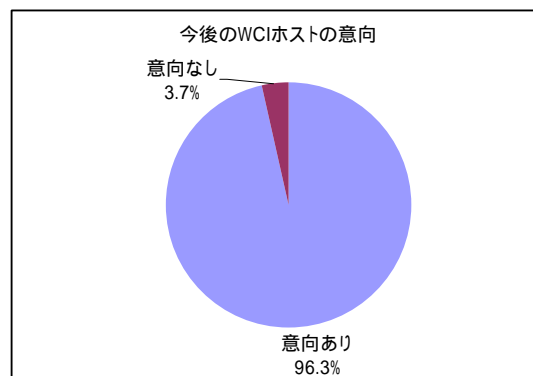
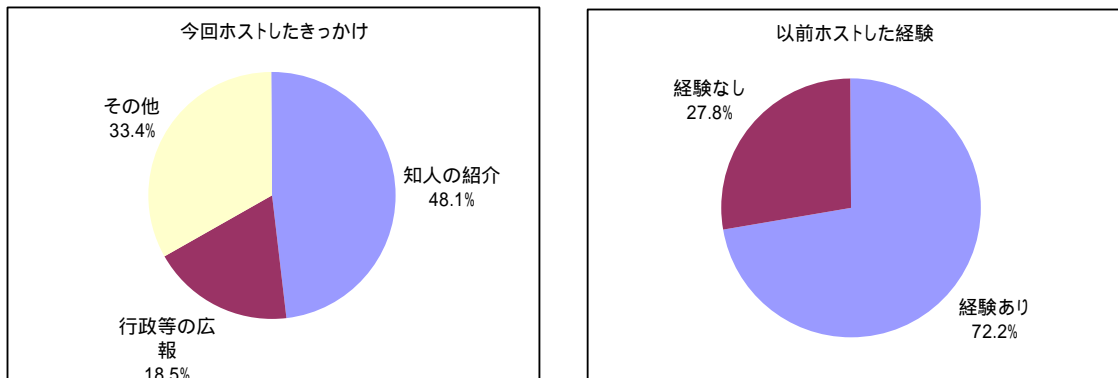
(1) 基本情報

今回は、各地域でホストファミリーの皆さんにアンケートへの協力を頂いた。5月時点で未回収の分もあるため、以下の内容は途中集計の参考値である。また、記述式の設問に対する回答もごく一部を抜粋した概要である。最終的な結果は夏季プログラムと併せて、2008年度の事業報告書として取りまとめるものとする。

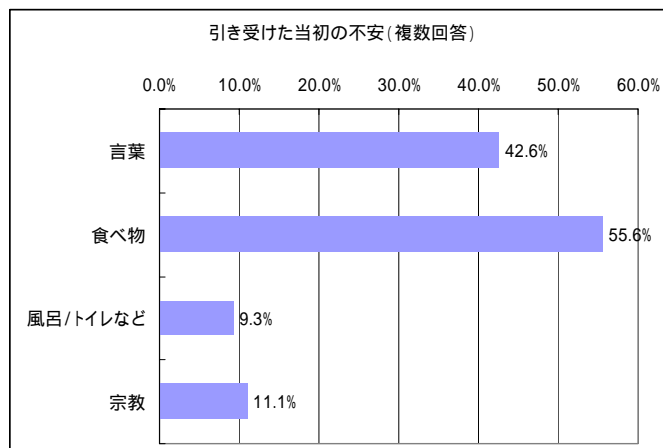
なお、この集計に用いたアンケート回収数は54票である（大村14、熊本9、荒尾14、吹田9、我孫子8）。

(2) 結果概要

ホストファミリーになったきっかけ



事前準備について



<事前に欲しかった情報・説明>

- ・ WCI や実行委員会に関する基本説明
 - ・ ツアー全体のスケジュールや内容の説明
 - ・ 当該地域でのスケジュールの詳細説明（特にホストファミリーデーや休日など）
 - ・ 食事に関する詳細な説明
 - ・ 日本語の理解度
- できるだけ早く情報・説明が欲しい

学生の滞在中について

<一番心に残ったこと>

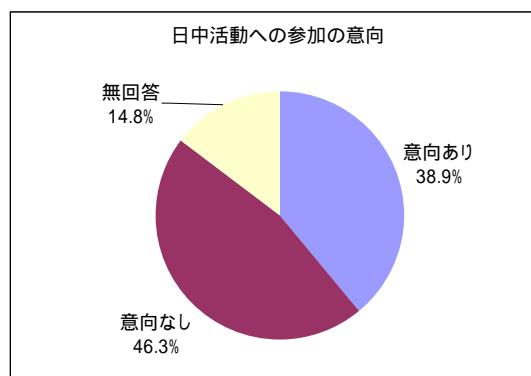
- ・ 日本についてよく知っていること、知ろうとする積極的な態度・姿勢
- ・ 手作りの料理、国・文化の違いに関する話
- ・ 礼儀正しさ、やさしさ、明るさ
- ・ ドライブ、カラオケ、イベント参加など、家族と過ごした時間

<困ったこと、苦労したこと>

- ・ 会話
- ・ 食事
- ・ 学生の休日の対応

<出来たら良かった、したかったこと>

- ・ すべてのメンバーや他のホストファミリーとの交流の機会
- ・ コミュニケーション上のアドバイス
- ・ カード利用や両替などに関する情報
- ・ ホストファミリーと過ごす時間の余裕



ホストの経験を踏まえて

<改めて気付いたこと>

- ・ 自分の住んでいる地域について自分がよく知らないこと、良さ・魅力の再発見
- ・ 日本のことがよく知られていること
- ・ 日本の文化や伝統、豊かさ、日本語の難しさ（普段当たり前だと思っていること）

- ・ 外国の若者の率直さ、真面目さ、明るさ

< 考え方や家族の変化 >

- ・ 子どもの世界への関心
- ・ 家族と一緒にいる時間が増えたこと、家族で協力しようという雰囲気
- ・ 日本の文化を大切にしようと思う気持ち
- ・ 積極的な姿勢・気持ち、普通に外国人と接することができるという自信

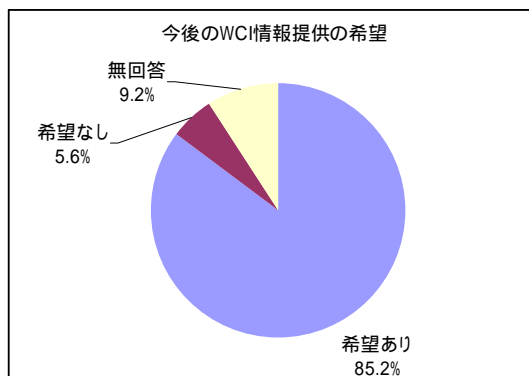
< 今回の経験の活かし方 >

- ・ 人のつながりを大切にしたい、他人と関わりたい
- ・ 英語を勉強したい、またホストしたい
- ・ 学生の出身国が身近になった、いつか行きたい
- ・ 毎日のできることからやっていきたい、何でも積極的にトライしていきたい

ワールドキャンパスについて

< 自由意見 >

- ・ 最初は滞在が長いと思ったが最後はもっと長ければと思った 少し滞在が長かった
- ・ 学生のスケジュールが少しハード、もう少し自由時間をあげては
- ・ こんな活動は知らなかった、興味深い
- ・ 楽しかった、また参加したい
- ・ 海外・地域の新しい人との出会いをありがとう



参考資料

参加者リスト

	氏名	年齢	出身国	参加セッション
1	Stephanie Yip	24	オーストラリア	1, 2, 3
2	Jotter Verhaeghe	20	ベルギー	1, 2, 3
3	Matilda Liu	23	中国	1, 2, 3
4	Dennis Xu	25	中国	1, 2, 3
5	Simo Kuitinen	24	フィンランド	1, 2, 3
6	Katharina Haack	20	ドイツ	1, 2, 3
7	Sophia Potter	22	ドイツ	1, 2
8	Ute Weber	40	ドイツ	3
9	Kaho Kashiwagi	19	日本	2
10	Yoshihiro Uchida	20	日本	2, 3
11	Shoko Watanabe	19	日本	1
12	Daniel Gallion	32	ルクセンブルグ	2, 3
13	Henning Rodtewitt	20	ノルウェー	1, 2, 3
14	Jonathan Cygnaeus	20	スウェーデン	1, 2, 3
15	Yannick Franel	22	スイス	1
16	Cyrill Gross	27	スイス	2
17	Stephen Bayego	37	ウガンダ	1, 2, 3
18	Henry Musenze	35	ウガンダ	2, 3
19	Danielle Mcknight	19	アメリカ	1, 2, 3
20	Faith Walls	24	アメリカ	2, 3
21	Guang Yeung	25	アメリカ	1, 2, 3
22	Mirgiyos Azimov	25	ウズベキスタン	1, 2, 3
23	Jamshid Ganiev	25	ウズベキスタン	1, 2, 3

地域実行委員会（代表）リスト

	都市名	受入れ組織	代表者
1	長崎県大村市	NPO 法人アップウィズおおむら	大隈和博
2	熊本県熊本市	ワールドキャンパスくまもと実行委員会	前田香代子
3	熊本県荒尾市	アップーありあけ	亀原了円
4	大阪府吹田市	ワールドキャンパス吹田実行委員会	三原満里
5	奈良県宇陀市	室生地区国際交流村実行委員会	北森義卿
6	千葉県我孫子市	住み良いまちづくり研究所	浜崎慶子

スタッフリスト

	担当	氏名	備考
1	総括	西村紀公	NPO 法人理事長
2	ジェネラルマネジャー	Bob Sloat	学生リクルート担当
3	ジェネラルマネジャー	金井貴美	地域対応担当
4	ツアーコーディネーター担当	野田香織	
5	プロダクション担当	Ben Hufford	
6	プロダクション担当	Cody Permenter	インターン
7	広報担当	相川千絵	
8	教育担当	Tekla Weiterman	
9	アドミッション担当	Reto Schaerli	インターン

協力企業・団体等

	都市名	企業・団体名
1	大村市	NPO 法人アップウィズおおむら 大村市、大村市社会教育課、大村市教育委員会、大村市事業局管理局、郡地区公民館、東彼杵町、東彼杵町教育委員会、長崎県原爆資料館、財団法人長崎平和推進協会、財団法人長崎原爆被災者協議会、大村市弓道協会、大村市少林寺協会 西大村支部、ビッグカントリージャズオーケストラ、ふれあいのつどい 2008 実行委員会
2	熊本市	ワールドキャンパスくまもと実行委員会 熊本市、熊本市国際交流会館、熊本市民会館、くまもと県民交流館パレア、熊本 Y M C A、リフレスおおむた、T K U テレビ熊本、R K K 熊本放送、K K T 熊本県民テレビ、熊本日日新聞、慈恵病院、国立療養所菊池恵楓園、山鹿灯籠民芸館、湯の児スペイン村福田農場、水俣市、エコボ水俣、熊本高校、阿蘇白水岩戸神楽保存会、Pステーション
3	荒尾市	アッピーありあけ 荒尾市 秘書室・農林水産課地域再生担当・くらしいきいき課・政策企画課、荒尾市教育委員会社会教育課・社会体育課、荒尾市地域再生雇用創出協議会、荒尾総合文化センター、アウルパン、青研、あらおシティモール、ありあけ国際交流協会、菊川ミニトマト園、コミュニティレストラン「梨の花」、永松 陽子様、西養寺、さかえうどん、小岱工芸館、(有)鶴田農園、長洲町国際交流友の会 にんじん畑、ハーブ研究会、原音楽事務所（スター気分）、万田炭鉱館 万田坑ファン倶楽部、みのり保育園
4	吹田市	ワールドキャンパス吹田実行委員会 吹田市、吹田市教育委員会、吹田商工会議所、大阪ユネスコ協会、吹田青年会議所、国立民族学博物館、日本万国博博覧会記念機構、FM 千里株式会社、吹田市立博物館'館長小山修三、関西大学英会話クラブ、三星ダイヤモンド工業株式会社、マロニー株式会社、朝日放送株式会社、株式会社千日総本店、味舌陶房、アサヒビール大阪工場株式会社、コカ・コーラホールディング株式会社、吹田ケーブルテレビジョン
5	宇陀市	室生地区国際交流村実行委員会 宇陀市、室生地域事務所振興センター、室生寺、室生園、音楽の森ふれあい館運営協議会、東大寺、室生龍穴太鼓龍神、宝の家、フレンドリークラブ、刀匠河内隆平、山岡呉服店、室生茶道クラブ、大野女性の会、奈良 YMCA
6	我孫子市	住み良いまちづくり研究所 我孫子市、我孫子国際交流協会、我孫子市社会福祉協議会、我孫子市教育委員会、LLP プロベ商会、エコリカ社、アロマ株式会社、(株)吉常タオル、ガールスカウト、アクタードールギャラリー風、岡発戸・都部の谷津を愛する会、鈴の会、

あびこ舞台、あびこ子どもネットワーク・ジュニアスタッフクラブ、保育園おはなし会、どんぐらどんぐり、ハウラ・ハウオリ・フラ、寺島ハワイアン・フラ・グループ、スタジオNビート、めばえ幼稚園母の会、我孫子中学校吹奏楽部、千葉県水の館、我孫子市鳥の博物館、山階鳥類研究所、(財)電力中央研究所、我孫子スポーツ少年団、沼南文化学園、あびこレクリエーションクラブ、福祉作業所みずき、(株)中村組、山遊亭金太郎、三遊亭とん楽、春風亭笑松、滝川鯉八、けやき社会センター、はるか共同作業所、地域福祉作業所にじ、かっぱの家、うさぎ工房、渡邊陽一郎・碧様
エクソンモービル(有)、(株)チームビルディングジャパン

